

## FD プログラム評価と再構築に関する研究

新潟医療福祉大学看護学科 西川 薫  
新潟医療福祉大学事務局 若井和則

## 【背景】

近年、大学教育における教育の質保証に関する課題が大きく注目されている。その重大さは、中央教育審議会（2008年12月24日）「学士課程教育の構築に向けて（答申）」において、「質の維持・向上に向けた努力を怠り、社会からの負託に応えられない大学があるならば、今後、その淘汰をさけることはできない」という一文が示している。

その一方で中央教育審議会は、学士課程教育の質を向上させるための方策として、①3つの方針（ディプロ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の明確化、②初年次教育、③FD・SD（ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメント）の実施、④少人数・双方向指導、⑤厳格な成績管理（GPA）などの重要性を明確に提示した。すなわちFDは学士課程教育の質の向上、ひいては大学の存在意義、存続に大きな影響力をもつ重要な要素であることを証明したのである。

本学では、学部におけるFDの義務化がなされた2008年より以前の2000年（開学準備）から積極的にFD活動に取り組んできた。本研究では本学が今まで取り組んできたFD活動を系統的に俯瞰したうえで評価することを目的とする。その結果、本学が今後進むべきFDを示す一つの資料になると考えている。

## 【方法】

本学で実施されてきたFD活動を俯瞰するための方法としてFDマップを用いる。FDマップとは、横軸（レベル）に「マイクロ（授業・教授法）」「ミドル（カリキュラム・プログラム）」「マクロ（組織の教育環境・教育制度）」、縦軸（フェーズ）に「Ⅰ. 導入（気づく・わかる）」「Ⅱ. 基本（実践できる）」「Ⅲ. 応用（開発・報告できる）」「Ⅳ. 支援（教えられる）」というマトリックスにFD活動を配置するものである。FDマップに配置する際には、実施された活動内容を十分に吟味したうえでおこなう。さらに、FDマップに表示するFD活動は、各年度に新たに加えられた活動のみを追加し整理することで本学のFD活動の特徴、課題を把握することとした。

## 【結果】

2000年から2010年までに実施されたFD活動をFDマップに配置した結果は以下の通りである。

## 1. ミクロレベル（授業・教授法）

ミクロレベルのFD活動は、69プログラムが実施されていた。内訳はフェーズ「Ⅰ. 導入」(62)、「Ⅱ. 基本」(5)、「Ⅲ. 応用」(2)、「Ⅳ. 支援」(0)であった。

## 2. ミドル（カリキュラム・プログラム）

ミドルレベルのFD活動は、20プログラムが実施されていた。内訳はフェーズ「Ⅰ. 導入」(18)、「Ⅱ. 基本」(2)、「Ⅲ. 応用」(0)、「Ⅳ. 支援」(0)であった。

## 3. マクロレベル（組織の教育環境・教育制度）

マクロレベルのFD活動は、7プログラムが実施されていた。内訳はフェーズ「Ⅰ. 導入」(1)、「Ⅱ. 基本」(1)、「Ⅲ. 応用」(5)、「Ⅳ. 支援」(0)であった。

## 【考察】

ミクロレベルのFD活動は「Ⅰ. 導入（気づく・わかる）」のフェーズで数多く企画・実施されてきた。特徴的な取り組みとして各教員が自分の授業や研究について発表するランチョンFDは、本学におけるFD活動の日常化をもたらしたと考える。しかし、多くのプログラムが五月雨式におこなわれてきた結果、ミクロレベルでのFDの形骸化と実施後の評価において課題が残されていると考える。

ミドルレベルのFD活動は、医学教育モデルをベースにその重要性は早い段階から認識されていた。しかし、FDの内容としてはシラバスの作成に重点をおいて実施されたため、シラバスとカリキュラムの関連性、重要性の意味が理解されないままに進められた時期があったと考える。現在は、3つの方針の一貫性によって大学教育の質保証が達成されることが認識され、カリキュラム・マップ作成という活動に大きく発展している。

マクロレベルでは、円滑にFD活動を実施できるための組織・管理が積極的におこなわれてきた。しかし、教育開発センター、FD委員会、教務委員会などの業務の連携において課題が残されていると考える。

## 【結論】

本学のFD活動はミクロレベルを中心にFD活動の日常化が普及していた。ミドルレベルではカリキュラムの重要性を認識した活動が近年、実施されていた。さらに、マクロレベルでは学生の立場に立った組織・環境の整備が実施されていた。しかし、各レベルが有機的に機能していない可能性が示唆された。この原因としては本学におけるFDの定義、方向性が十分に定まっていないことが関係しており、今後の最重要課題であると考えられる。

（本研究は2011年度 第1回高等教育開発フォーラムにおいて事例研究で発表した内容を一部加筆・修正した。本研究は2010年度 新潟医療福祉大学研究奨励金学長裁量研究費の助成を受けて実施したものである。）

## 【引用・参考文献】

- 1) 国立教育政策研究所：FD 実質化のための提案，国立教育政策研究所，2009.
- 2) 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて（答申），中央教育審議会，2008.
- 3) 佐藤浩章：カナダ・マギル大学におけるFDのフレームワークと活動内容，大学評価研究，2008；7：63-72.